

連載：原点

教え合い

市川南高等学校 坂内 奏斗

私は講師として3年間、公立と私立の学校で勤務し、多くの先生方に様々なことを教えていただきました。今年度、正規採用となり、市川南高等学校に初任者として着任して約5ヵ月が経ちました。わずかですが今まで教壇に立つ経験はあったものの、日々分からないことが多く不安だらけですが、先生方に助けられ、多くのことを勉強させていただく毎日を送っています。

私は講師のとき、授業ではひたすら黒板を使い、例題の解き方を教えた後、その類題を生徒に解かせて、解説を行うだけの授業をしていました。いわゆる一方通行の授業です。そこである先生から、「授業内で生徒の声を聞いているか。」「50分の授業の中で生徒の活動はあるのか。」ということを指摘されました。私は、授業だから問題を解けるようになればよい、良い点を取れるようにすればよいと考えていたため、教えて解かせる授業を展開していました。しかし、授業で学ばせるのは、教科書の内容だけではなく、思考力や伝達力などもはぐくまなければならないとアドバイスを受けました。そこで、生徒が活動する時間がある授業とは何かを考え、先輩の先生方の授業を見させていただき、「教え合いの時間」を作ることになりました。

実際には、生徒が問題を解く際に、教え合う時間を導入しました。まずは、3分程自分ひとりの力で考えさせます。その後、中々ペンが進まない生徒には、周りの生徒と相談して解く時間を作りました。私は、相談してもよいと言ったところで、静かに黙々と解くだろうと思っていましたが、意外にも教え合う生徒が多かったのが印象的でした。また、早く解き終わった生徒は、苦手な生徒に対して自ら教える場面もありました。その光景を見て、今までの自分の教えるだけの授業スタイルがいかにも、生徒にとって退屈で物足りない授業だったかと反省しました。今後、問題を教え合う時間のはずが、授業に関係のない話をしてしまうことが課題になると思います。しかし、こちらがめげずに注意し続け、生徒との良い関係性を築ければ解決に向かうのではと考えています。

生徒たちの教え合いの場面を見る中で、分からない生徒は、友達同士なので質問しやすく聞きやすく、また、丁寧に説明しようと模索する生徒を見て、教える側・教えられる側の双方に多くのメリットがあると思いました。このような方法によって、勉強が苦手な生徒が達成感を味わい、苦手意識を減らすだけでなく、思考力や伝達力をはぐくむことができると考えます。授業内での生徒の活動は、教え合い以外にもたくさんあると思うので、先輩の先生方の授業を見せていただくなど、学習指導に関して研究と修養に励んでいきたいと思っています。